

# 報告とお礼 320 人の参加で『関電よ 老朽原発うごかすな！』 『岸田政権の原発暴走 NO！』 高浜全国集会および町内デモ

岸田政権は、一昨年10月に決定した「エネルギー基本計画」で「原発の新増設や建て替えは想定しない」としていましたが、決定から1年も経ない昨年8月、この基本計画まで無視し、また、原発の運転期間は最大60年とした法律を蔑ろにして、「原発依存社会」への方向転換を表明しました。

岸田政権は、①原発の停止期間を運転期間から除くことによって、原発の60年を超える運転を可能にしようとしています。しかし、世界にも、60年を超えて原発を運転した経験はありません、最古の原発でも、運転期間は53年です。

また、②廃炉になった原発の代わりに革新型原子炉、新型小型原子炉を建設するとしていますが、これらの原子炉は、過酷事故の危険性や何万年もの保管を要する使用済み核燃料を残す点では、従来の大型原子炉と変わりません。「革新」や「小型」の言葉遊びで人々を騙そうとしているのです。

さらに、③破綻した高速炉、60年以上も膨大な研究予算を投下し続けたにもかかわらず、いまだに実用の兆候も見えない高温ガス炉や核融合の開発を新しいテーマのごとく取り上げて、膨大な予算を投下しようとしています。

岸田政権は、原子炉の安全対策、原子炉材料、放射性廃棄物の処理処分などの科学・技術にほとんど進歩がないにも拘わらず、原発関連大企業などの「原子カムラ」の救済のために、原発推進を「決断と実行」（自民党ポスター）しようとしています。岸田首相がどう願望しようとも、経済的利益や政治的思惑で科学・技術が急に進歩することはありません。

岸田政権は、「原発依存社会」に向かって、5法案（原子力基本法、電気事業法、原子炉等規制法、再処理等拠出金法、再生可能エネルギー特別措置法）を、エネルギーの安定供給、脱炭素に関わるとして、束ねて（「束ね法案」として）今開催中の通常国会に提出し、審議を尽くすこともなく、4月27日、衆議院で強行可決し、参議院に送りました。「束ね法案」は「GX脱炭素電源法」と名付けられ、原発関連法改悪をその中に紛れ込ませて（「原発」の文字を隠して）いるのです。人々を、だまし、あざむく行為です！

この「束ね法案」では、原子力の憲法・原子力基本法（1955年に「自主・民主・公開」による原子力の平和利用と原発の安全確保をうたって制定）を改悪し、『原発活用で電力の安定供給や脱炭素社会の実現に貢献することを「国の責務」と位置付ける項目を新設するとしています。また、原発運転期間に関する規定を、環境省（規制側）所管の原子炉等規制法から削除し、経産省（利用側）所管の電気事業法に移そうとしています。福島原発事故の教訓の上に、原発の「利用と規制」を分離した経緯を無視し、運転期間の判断を利用側の経産省に委ねる改悪です。

「原発依存社会」へ暴走する政府の先兵が関電です。関電は、運転開始後46年を超えた老朽原発・美浜3号機を運転し、48年、47年超えの老朽原発・高浜1、2号機を近々再稼働させようとし、38年、37年超えの高浜原発3、4号機の40年超え運転を原子力規制委員会に申請しています。

しかし、関電の原発では、トラブルが頻発しています。中でも、高温・高圧水が流れる、蒸気発生器伝熱管などの一次冷却系配管の損傷の多発は深刻です。一次冷却系配管が完全破断すれば、一次冷却水が噴出し、原子炉が空焚きになり、メルトダウンに至る危険があるからです。また、去る1月30日に高浜4号機で発生した制御棒の異常挿入も、制御棒は原子炉のブレーキであるだけに、深刻です。さらに、美浜3号機でも、再稼働以来の運転期間は1年にも満たないにもかかわらず、4度ものトラブルが発生していることも見過ごせません。原発過酷事故の不安は、益々大きくなっています。

今、電気は足りています。余っています。電力がひっ迫するのは、1年のうちの数日です。それも1日の内の数時間です。このような一時的な電力ひっ迫は、節電によって乗り切れます。電力逼迫をことさら喧伝し、負の遺産・使用済み核燃料を増やし、過酷事故を起こしかねない原発を推進する政府や電力会社を許してはなりません。

今こそ、目に見える行動に立たなければなりません。トラブル続きの老朽原発・美浜3号機の運転を止めさせ、老朽原発・高浜1、2号機の再稼働を阻止し、それを突破口に、原発全廃の大きなうねりを形成しましょう！

## 「4.29 高浜全国集会」で「老朽原発うごかすな！」の決意を固め、町内デモで高浜町民に「原発のない社会」をアピール

### 「前段行動」では、関電に抗議と申し入れ

「老朽原発うごかすな！実行委員会」が、4月29日に開催した「関電よ 老朽原発うごかすな！高浜全国集会」および町内デモには約320人が参加されました。また、この集会の前段として行われた、高浜原発周辺でのデモ行進、抗議・申し入れ集会には約200人が結集され、抗議行動の行われた北ゲート前広場は溢れかえりました。

高浜町文化会館での全国集会では様々な地域、多様な団体からの発言がありました。中島哲演さんの「福島原発事故直後に短期間の集中審議で脱原発への道を切り開いたドイツの倫理委員会の日本版を作って、老朽原発再稼働が進む危機的な状況を打開しよう」と訴える主催者挨拶、若狭の原発の風下・名古屋、岐阜から大型バスで駆け付けた36人の代表の「弱い者にしわ寄せを強いる原発に抗う行動を！」との訴えに続き、井戸謙一弁護士の「人災は騙されたころにやってくる、今、原発に関して騙される人が増えているかもしれない。これを押し返さなければならない」とするメッセージが紹介されました。さらに、「なくそう原発・核燃、あおりネットワーク」「とめよう！東海第二原発 首都圏連絡会」「伊方から原発をなくす会」「ストップ川内原発！3.11鹿児島実行委員会」「原発賠償関西訴訟原告団」からの挨拶（代読を含む）が続き、地元・若狭湾沿岸の「原発設置反対小浜市民の会」「福井の老朽原発訴訟の会」「原発ゼロをめざす宮津・与謝ネットワーク」、労働組合関係から「ユニオンネットワーク・京都」「フォーラム平和関西ブロック」「福井県労働組合総連合」「京都地方労働組合総評議会」のご挨拶を頂きました。いずれにも大きな拍手がわきました。集会は、集会決議（裏面参照）の採択とシュプレヒコールによって締めくくられました。

集会では、全国ほぼ全ての原発、核施設立地で闘う皆さんから寄せられ、原発、核施設の現状、運動の様子をまとめたメッセージ集も配布されました。

集会後は、旧街道を經由して、「老朽原発動かすな！」を訴える力強いコールを挙げながら、町内デモを敢行しました。

デモは、狭い街道ながら、道一杯に拡がり、フランスデモの様相を呈するものとなりました。窓を開けて見ている人、玄関前で手を振ってくれる人、感謝を述べる人、声援くださる人など、今まで以上に多数の住民の、目に見える形での激励を得ることができました。反原発の願いの大きさを実感しました。

## 4.29「高浜全国集会」にご参加、ご支援 いただきました皆様、有難うございました

老朽原発うごかすな！実行委員会  
連絡先 090-1965-7102（木原）



音海展望台から高浜原発北門前へ



高浜原発北門前 抗議行動



4.29 高浜全国集会



高浜町内デモ



## 4.29「関電よ 老朽原発うごかすな！ ～岸田政権の原発暴走 NO！～」高浜全国集会 集会決議

原発は、現在科学技術で制御できる装置でないことを、発生後12年を経た福島原発事故が、大きな犠牲の上に教えています。その原発が老朽化すれば、危険度が急増することは多くが指摘するところです。

それでも、岸田政権は、原発運転期間は原則40年、最長でも60年とした法律を骨抜きにし、原発の60年超え運転を画策しています。しかし、世界にも、60年を超えて運転した原発はありません。最長でも、運転期間は53年です。地震、火山噴火、津波の多発する日本での60年超え運転は、無謀で、福島原発事故の犠牲と教訓を蹂躪するものです。

さらに、岸田政権は、昨年8月、何の議論もなく唐突に、革新型原子炉、新型小型原子炉を建設する方針に転換しました。しかし、これらの原子炉は、過酷事故の危険性や何万年もの保管を要する使用済み核燃料を残す点では、従来の原子炉と変わるところがありません。

岸田首相がいかに願望しようとも、経済的利益や政治的な思惑で、科学・技術が急に進歩することはありません。原発の老朽化を防ぐ技術や原発の安全性が急に向上することはありません。

ところで、4月15日に脱原発を完成させたドイツは、福島原発事故直後から脱原発を進め、再生可能エネルギーの割合を2割から5割に増加させています。一方、福島原発事故の当事国・日本は、原発維持に固執したため、再生可能エネルギーの割合は、1割から2割に増加させたに過ぎません。長期にわたる自公政権のエネルギー政策の失敗の結果、脱原発の流れに乗り遅れたのです。岸田政権は、その失敗を取り繕うために、さらに大きな過ち「原発依存社会」に向かって暴走しています。奈落の底「原発過酷事故」に突き進んでいます。

今、国会では、「原発依存社会」に関わる5法案の改悪に向けて、審議が大詰めを迎えています。このいわゆる「東電法案」では、原子力の憲法・原子力基本法を改悪し、原発活用で電力の安定供給や脱炭素社会の実現に貢献することを「国の責務」と位置づける項目を新設するとしています。また、原発運転期間に関する規定を、原発規制側の環境省所管の原子炉等規制法から削除し、原発利用側の経産省所管の電気事業法に移そうとしています。福島原発事故の教訓の上に、原発の「利用と規制」を分離した経緯を無視し、運転期間の判断を利用側に立つ経産省にゆだねる改悪です。許してはなりません。

一方、原発トラブルを頻発させ、原発マネー不祥事や法令違反を繰り返している関電は、反省することもなく、岸田政権の尖兵として、運転開始後46年を超えた、老朽原発・美浜3号機を運転し、48年、47年超えの老朽原発・高浜1、2号機を、6月までにも再稼働させようとしています。「原発依存社会」への暴走を先導しようとしているのです。

今こそ、「原発全廃」「原発依存社会に暴走する政府はならない」を掲げた目に見える行動に起たなければなりません。

本日、高浜全国集会に結集した私たちは、危険極まりない老朽原発・美浜3号機の運転、高浜1、2号機の再稼働を阻止し、それを突破口に、原発全廃の大世論を形成し、原発のない、人の命と尊厳が大切にされる社会を実現することを決議します。

2023年4月29日

「関電よ 老朽原発うごかすな！ 高浜全国集会」参加者一同

**老朽原発・美浜3号機、高浜1、2号機、東海第2原発の即時廃炉を勝ち取り、それを突破口に、核燃料、化石燃料に依存しない社会を実現しよう！**

**川内原発1、2号機、高浜原発3、4号機の40年超え運転を許すな！**

**「原発依存社会」へ暴走する岸田政権を打倒しよう！**

高浜3、4号機延長  
市民団体が抗議行動  
ゲート前など  
市民団体「老朽原発うごかすな！実行委員会」は二十九日、関西電力が原子力規制委員会に運転期間二十年延長を申請した高浜原発3、4号機（高浜町）のゲート前や同町内で抗議行動をした。

行進。ゲート前では全ての原発停止などを求める申し入れ書を関電側に手渡し、「運転延長絶対反対」「自然エネルギーに切り替えを」などと抗議の声を上げた。同団体の木原壮林さん（モトノ）京都市は「原発は現在の科学では制御できない。トラブルの連続が証明している」と話した。



高浜原発のゲート前で抗議の声を上げる参加者たち。高浜町音海で

（林侑太郎）

2023年4月30日中日新聞

高浜原発3、4号機  
運転延長に反対訴え  
市民団体デモ行進  
市民団体「老朽原発うごかすな！実行委員会」は二十九日、関西電力が原子力規制委員会に運転期間二十年延長を申請した高浜原発3、4号機（高浜町）のゲート前や同町内で抗議行動をした。

県内外から集まった約二百人が、「高浜原発うごかすな」などと書かれた横断幕を掲げ、約三百人をデモ行進。ゲート前では全ての原発停止などを求める申し入れ書を関電側に手渡し、「運転延長絶対反対」「自然エネルギーに切り替えを」などと抗議の声を上げた。同団体の木原壮林さん（モトノ）京都市は「原発は現在の科学では制御できない。トラブルの連続が証明している」と話した。

2023年4月30日県民福井

## 原発暴走政権ノ一 老朽炉動かすな ■ 独に学べ

福井 高浜で全国集会



「関電よ、老朽原発うごかすな」岸田政権の原発暴走NO！高浜全国集会（実行委員会主催）が29日、関西電力高浜原発3号機再稼働と高浜1・2号機再稼働

立地する福井県高浜町の町文化会館で開かれ、300人が結集しました。老朽原発の美浜3号機運転を阻止することを突破口に「原発全廃の大世論を形成し、原発のない、人の命と尊厳が大切にされる社会を実現する」とした決議を採択。一方、全原発廃炉をめざす意欲が示されました。福井の老朽原発訴訟の会の山本雅彦代表が断言しました。

2023年4月30日しんぶん赤旗